

1. 各診療科

内 科

《概要》

玉置俊治副院長の指導のもとに内科疾患を担当する。大野昭（部長・内分泌代謝内科）、矢倉宏祐医長（総合内科）、葛城有希子。

《実績》

延入院患者数 1,936 人/年 （約 161 人/月）

延外来患者数 15,366 人/年 （約 1,280 人/月）

〔糖尿病診療〕

糖尿病は主要な血管疾患の母地であり標準的な血糖管理・合併症の検索と血管事故予防を掲げ、医療機関連携のうえで総合ゲートキーパー機能を兼務している。CSII（持続皮下インスリン注入療法）に加えてCGM（連続糖監視）を稼動し患者さんの自己管理向上を目指している。

〔甲状腺疾患〕

専門家として矢頃綾博士を招聘し外来診療をおこなっている。悪性腫瘍の検出・重症甲状腺代謝異常の対策に実をあげつつある。

〔地域医療〕

第5次医療計画が挙げる4疾病（がん・心血管・脳血管・糖尿病）について対策整備することは当院に資するところ大である。地域の糖尿病診療を最適化し他3疾患の予防・標準治療と整合させることを推進している。泉州2次医療圏の糖尿病地域連携医療協議会（事務局和泉保健所）に参加し、小委員会委員長として糖尿病地域連携クリティカルパスの改善・普及、地域糖尿病診療の均てん化を目指している。

〔総合外来〕

予約・紹介をもたない患者さんの時間内診療に関して、内科医が分担し、江口寛教授の応援を得て診療している。